

令和6年11月14日

学 長 殿

男女共同参画推進室

育児時間取得期間延長等についての提言書

本学では、子の養育のために1日の勤務時間の一部について勤務しないことができる育児時間や子の看護のための休暇などの制度がありますが、当室に対してこれらの制度を利用できる期間の延長についての要望があり、全教職員を対象に小学校就学以降の育児についての状況や制度に対するニーズを調査しました。

アンケート調査から得た教職員の意見・要望を踏まえて以下を提言いたしますので、大学の財政状況が厳しい中ではありますが、ご検討いただきたくよろしくお願いいたします。

提言の実現には、職場の理解や協力、業務の見直しや方法の改善などが不可欠であり、当室としてもこれらの啓発、提案に引き続き取り組んでいきたいと考えております。

提言1 育児時間取得期間延長について

アンケート結果から、(Q9) 育児時間取得期間延長について「延長するべきである51%」、「延長してもよい35%」という結果となりました。回答者の約9割は、育児時間取得期間の延長について肯定的に捉えております。アンケート(Q1)では、小学生のお子さんがあると想定し育児時間取得期間が延長された場合に取得を希望するという回答が約90%となりました。アンケート(Q4)でも、子どもがいる方のうち、現在は小学生の子どもがいない場合であっても子どもが小学校就学時であると想定し育児時間取得が可能であれば取得していたと回答した方は90%となり、制度が整備されていれば利用を希望するという意見が大多数となりました。

延長期間については、小6までが54%と一番多く、それ以外の回答としては中学卒業まで、高校卒業までという意見もありました。

提言2 両立に関する制度（子の看護休暇、保育サポート、育児に使える休暇制度などの充実、育児休業制度（男性が育休を取りやすい環境）など）の充実について

アンケート(Q7) 育児に関することについて困っていること（困ったこと）として、「子の看護休暇」を小学校就学後も病気になった際に利用したいという意見が多く、育児時間と同様に、子の看護休暇についても取得期間延長を望んでいます。また、アンケート(Q8)(Q10)で、仕事と家庭の両立をさせるための望むこととして、入試やオープンキャンパスの際の保育サポートを望む声がありました。

育児に使える休暇制度や、男性が育休を取りやすい環境整備、理解促進のための情報発信についても意見があり、両立に関する制度やサポートの充実について望んでいる結果となっています。

提言3 勤務時間に関する制度（テレワーク、フレックス勤務等）の充実について

アンケート(Q8)(Q10)で仕事と家庭を両立させるための制度として、テレワーク、フレックス勤務の導入希望の意見が最も多くなりました。

育児に限らず、今後は介護の需要も多くなることが予想され、仕事と家庭を両立させるために柔軟な働き方ができるよう、制度の整備を望む声が多数ありました。

一方で、制度があっても職場の理解や協力がなければ結局利用しづらい、反対に制度を利用しない方の負担増による不公平感の発生も想定され、制度の充実と併せて業務の見直しや方法の改善などが不可欠であるという意見が寄せられています。

以上